

本時のねらい

調べた内容について、相手に伝わりやすくするための改善点を見つける。

本時における1人1台端末の活用方法とそのねらい

・自身が興味を持ったことについて調べ、それをスライドにまとめプレゼンテーションの形で発表する。1人1台端末を使用し教科書の課題例より、自身が興味をもったことを一つ選び、インターネットを使って調べ、まとめる。また、発表の様子などを動画で撮影し、評価の観点に沿って見返すことや、他者からのアドバイスを受ける場面を設け、発表内容をわかりやすく伝えるための改善点に気づかせたい。

【課題例】①日本のお米の消費量はなぜ減ったのか。 ②鉛筆はなぜ六角形のものが多いのか。 ③馬は草ばかり食べているのに、どうして筋肉が発達しているのか。 ④洋服のしみを取る効果的な方法は何か。 ⑤中学生に人気があるのは、どのような映画か。

活用したICT機器・デジタル教材・コンテンツ等

・タブレット端末 (iPad) ・Google スライド ・カメラ ・Keynote

本時の展開

学習の流れ	主な学習活動と内容	ICT活用のポイント・工夫
導入 (10分)	○本時のめあて、学習課題を知る。 ○前時に使った発表原稿と発表スライドを見ながら、自身のプレゼンテーションをイメージし、変更箇所があれば修正する。	・スライドを生徒自身で動かしながら、発表の仕方について工夫するための時間を確保する。
展開 (30分)	○ペアの生徒と向かい合い、発表者と撮影者に分かれて、プレゼンテーションの練習を行う。 ○「スライド作成」や「話し方」のポイントを踏まえ、ペアの相手からアドバイスをもらい、次時の本番に活かす。 ○エアードロップで動画を送り合い、自身の発表動画を評価の観点に沿って見返し、改善点を見つける。	・「スライド作成」や「話し方のポイント」を提示する。 ・発表者の話し方や視線などの様子がわかるように撮影させる。 ・エアードロップで送る際、送り間違いがないように注意させる。
まとめ (10分)	○自分が見つけた改善点や相手からもらったアドバイスをふまえて、発表原稿と発表スライドを修正する。	

1人1台端末を活用した活動の様子



写真1：個人でプレゼンテーションのイメージを考えている場面



写真2：ペアで相手のプレゼンテーションをきき合っている場面



写真3：自身の動画を見返して改善点を見つけている場面

児童生徒の反応や変容

- ・これまで複数でプレゼンテーションを行ったことはあるが、一人でプレゼンテーションを行う機会がなかったため、小学校からの積み重ねを生かしてスライド資料に自分なりの工夫をするなど、主体的に授業に取り組むことができていた。
- ・自身の動画を評価の観点に沿って見返すことによって、改善点に気づき、新たな発見があった。相手にわかりやすく伝えるために工夫する力（話し方・資料の工夫）を養うことができた。

授業者の声～参考にしてほしいポイント～

- ・相手にわかりやすく伝えるために、「スライドの構成」や「話し方の工夫」をすることが効果的であることを体験させたいと考えた。相手に撮影してもらった動画を見ることによって、自身の改善点を自分で発見することができると思う。
- ・プレゼンテーションを取り入れた授業では、「つきたい力」を明確にすることで、さまざまな資質・能力を育むことができる。